

手塚治虫に始まる マンガ研究の気運

——マンガとの関わりをお聞かせください。
吉村 手塚治虫さんが平成元（1989）年、昭和天皇が亡くなつて約1カ月後（2月の日）に亡くなりました。この時

わせて大丈夫でしょうか」と聞かれるわけですよ。「わざわざ大学でマンガなんて研究してどうするのかとも言われました。私は説明する側に回りながらその時々を乗り越えてきたというか…。

吉村 見つからていませんというか、見つからないと思います。むしろ持続する方が大事だということも含めて、小松先生からの眞鶴ごどこと思つています。

そこに皆が氣いでいく。これがマンガ研究の氣運につながっていきました。

当時、私は高校2年生。その後熊本大学に進学し、文学部史学科に入りました。当時の担当教員だった小松裕先生に「どんなことを研究すればいいのですか」と率直に聞いたところ、「人間の営みはすべて文化だから、何を研究してもいい」と言われて。大学ってカッコイイなー」と思いました。

それで、大好きだった手塚治虫について研究したいと思って発表したところ、小松先生が「吉村君、マンガは研究じやない、趣味だ」と。ダメだと言われたんです。それで、なんでマンガは研究にならないのかとか、研究と趣味を分けるものは何だろうかと考え始めました。振り返れば今も、ずっとそれが続いているのです。

これを持続できているモチベーションは、研究とは何か、趣味と研究の違いは何かといった本質的なことを仕事柄、

定期的に考える必要が生じたためです。特にマンガ学部を作る時には、保護者の方が「うちの子をマンガ学部になんて通

吉村 大好きでした。父もビッグコミックなどを買って帰る人でしたし、特に影響が強かったのは、叔父です。ガロとCOMが双璧であつたマンガの黄金期と言われる1960年代後半に大学生だった叔父が買っていた「カムイ伝」や「火の鳥」を、保育園児だった私が盗み読みみていました。研究すると分かるのですが、小さい頃に接している絵本などのリテラシーと陸続きになるような感じで描かれている要素が手塚先生のマンガにはあります。その読みやすさも含めて「火の鳥」にはまつてしまふた。

原田 僕がこの中では一番マンガ体験が少ないんじゃないかな（笑。「あしたのジョー」しか知らないけど、今これをパラパラと見ていると、不思議なことに当時の感情が出てくる。ずいぶん昔に読んで、こうだつたなあと。マンガは視覚的、映像的なものがダイレクトに人間の感覚に影響して、それが残っているというか。



京都精華大学副学長・マンガ学部教授

吉村 和真 氏 ×

原田 信志

熊本大学副学長

谷原秀信 熊本大学文学部長 水元豊文

經濟企劃部課長 一浦貽人

文化資源としてのマンガ。
その多面的価値を研究し、
地域の価値として
発信していく。

吉村 それは、そのマンガを読んでいた時の社会や世相のこととか…。

原田 そうそう。周辺のことがね。

吉村 すごく大切な話ですよね。

若者の人生観や価値観に影響を与える

谷原 僕は大阪の生まれで、関西には貸本文化がありました。小遣いを握りしめてマンガを借りて通っていたのを覚えています。小学校に入る頃に「伊賀の影丸」とか「影丸伝」がすごいブームで、小学校1年生で「ウルトラマン」が始まり、その後前に「鉄腕アトム」がアニメで売れて、中学校に入る頃に「仮面ライダー」が始まつて、マンガとかアニメとか、特撮物や映像文化にどっぷり漬かっていた世代ですね。

吉村先生が言われたみたいに、学問とはどういうものか。伝統文化や夏目漱石の研究は素晴らしいことで大事ですが、若い人の人生観や価値観、情動的な部分に影響を与える点では、マンガやアニメもすごく大きい。算出根拠は分かりませんが、マンガ文化の市場規模は5千億円で、小説の市場規模と匹敵する。アニメ産業が2兆円、ゲーム産業が1.5兆円という算出もあります。日本を世界から見た時に、マンガは一つの文化であり、日本オリジナルです。手塚治虫さん以降、若者の人生観に影響を与えるような文化が、今まさに起こっている。日本に対する評価が高い。



水元 テレビが家に来たのが小学校の初め頃です。「オバケのQ太郎」や「パーーマン」という番組が、善悪の判断を教えてくれた。「ゲゲゲの鬼太郎」も、怖いもの、怖いってなんだろうとか。「これはやつちやん」といういきなりの感覚を、親だと反発するけれど、意外とマンガから知らんないうちに自分の中に入れている(笑)。

たぶん自分の大事な価値観だと思う。部分を作ってくれているのはマンガやアニメで、現代文化資源学コースを作りたいのは、これだけ影響力のある、価値

A photograph showing three men seated around a long wooden conference table. The man on the left is partially visible, wearing a dark suit. The man in the center is smiling and gesturing with his hands while speaking. The man on the right is also smiling. The table is covered with numerous books, papers, and a large bouquet of flowers in the center. The background consists of light-colored walls and a window.

学問になるのか?という意見はあります
ですが、例えば歌舞伎はもともと出雲の阿國の怪しげな踊りが始まりと。能楽も、こつけいな猿楽みたいなものから始まって芸術性が高いものになつた歴史の教科書には、後白河法皇は今様が好きで怪しげな歌を集めていって、それが「梁塵秘抄」になつたと書かれています。今まさに起きている文化だからこそアカデミアの人間が、より高いものに昇華できるよう育てていかないといけない。

吉村 マンガもアニメも特撮も、日本にいると小さい頃から当たり前みたいに受容しているので、その影響が無意識のレベルに達しています。だから、マンガがつて簡単なのになんで「勉強」する

のあるものを熊本大学がやるのは意味があると思うからです。

三浦 私の世代は「少年ジャンプ」黄金期。昭和53年度生まれです。ここにある「ドラゴンボール」や「聖闘士星矢」「北斗の拳」など。これらのマンガやTVアニメは、当時の小中学生の一般教養のようなもので、重要なコミュニケーションツールになっていたと思います。

吉村 黄金期のジャンプは650万部売れていますからね。堀江信彦編集長(熊本出身の時。恐ろしい数字ですよ。

三浦 小学校4年生ぐらいの時、市の作文コンクールで入賞して図書券を3万円もらいました。それで全部マンガを買

マンガは視覚的、映像的なものがダイレクトに人間の感覚に影響して、それが残っているというか。

原田 僕がこの中では一番マンガ体験が少ないんじゃないかな(笑)。「あしたのジョー」しか知らないけど、今これをパラパラと見ていると、不思議なことに当時の感情が出てくる。ずいぶん昔に読んで、こうだつたなあと。

吉村 そうですね。文化庁のメディア連携促進事業として、この5年間、熊本大学、明治大学、うちの京都精華大学で一緒にやつてきました。熊本に「刊本プール」といって、そのをつくりさせて頂きました。刊本とは、マンガの雑誌と単行本のことを指します。いろんな大学が扱っている資料群で、収まり切れないものをいつたん熊本にプールして、そこから必要に応じて、いろんな自治体で、マンガのコレクションが欲しいとか、ミュージアムのようなものを作りたいというところに送る作業をやり始めている。それが「森野倉庫」で、その一つの成果が「合志マンガミュージアム」です。高知県が新しく「高知まんがBA SE」を今年の4月にオープンしますが、熊本の刊本プールから数千冊の雑誌などを送ります。新刊を流通させるのではなくて、研究や文化の視点で、全国をつなぐ本の交流をさせているのが熊本の実績です。

マンガ文化は編集者が支えてきた

熊本市出身。熊本大学医学部卒、熊本大学大学院医学研究科（博士課程）修了。マサチューセッツ大学医学部病理学教室医学研究員、ネブラスカ大学医学部病理学教室アシスタントプロフェッサー、京都大学助教授などを経て 1989 年熊本大学医学部教授に着任。エイズ学研究センター長、大学院医学薬学研究部長、同生命科学部研究部長、理事・副学長などを歴任。2015 年 4 月学長に就任。専門は感染防御学。

熊本大学長 原田 信志

A portrait of a middle-aged man with a full white beard and mustache. He has short, light-colored hair and is wearing a dark suit jacket over a white shirt and a dark tie with small white dots. He is smiling broadly, showing his teeth, and looking slightly to his right. The background is plain and light-colored.

興味ある人が集まり
化学反応を起こす場に

興味ある人が集まり
化学反応を起こす場に

三浦 文化庁で行っているアーカイブ事業も、そもそもコンセプトはそれで、一ヵ所で全部揃えるのは不可能なので、全国各地の拠点が持つ作品の所在情報を把握し、それを一つの大きなコレクションとして活用するという。

吉村 そうですね。文化庁のメディア連携促進事業として、この5年間、熊本大学、明治大学、うちの京都精華大学で一緒にやってきた。熊本に「刊本ブルー」というのをつくらせて頂きました。刊本とは、マンガの雑誌と単行本のことを指します。いろんな大学が扱っている資料群で取り扱い切れないものをいつたん熊本にブルーして、そこから必要に応じて、いろんな自治体で、マンガのコレクションが

た。むしろ海外の人たちが日本でマンガを学ぶ時に、日本でマンガ家になりたい人もいれば、いきなり国際市場に出せるネットを目指す人もいます。

おうとしたら、親から、一部は辞書でも
買いなさいと言われて、やむなく辞書も
買い、残りは横山光輝さんの『三国志』
全60巻を一気に(笑)。それが入り口になつて、大学では日本史学を専攻し、文
化庁を志すことに。芸術文化課でマンガ
を含むメディア芸術を担当した際に、産
学官の連携を促進する取組や作品の所
在情報をデータベース化する事業で、吉
村先生には大変お世話になりました。6
年ぶりに熊本でお会いするだけでも驚
きでしたが、たつた今、急遽この座談会
に参加することになるとは(笑)

A photograph showing four men in a room with wooden walls and shelves. One man in a blue suit is kneeling on the floor, reading a large book. Three other men in suits are standing behind him, smiling. The room appears to be a library or a bookstore.

め、それ以降の人たちがものすごく変わった。子ども向けの面白おかしいマンガ文化から、大人の鑑賞に耐える文学性や芸術性を持つものに変わつていった。
吉村 販売部数ベースで言うと、ちょうど平成になる頃に少年少女向けより青年・成年向けが上回る。おっしゃったように、まさしくターニングポイントがある。ある時期まではマンガは子どものものだと思われていました。今は少なくとも

熊本は人材が集まり注目の的

—熊本からはマンガ家がたくさん出ていますね。

吉村 マンガ家になる方はどの地方にもいらっしゃいますが、熊本にはマンガ家を研究する人が集中している。合志マンガミュージアムの館長をされている橋本博さんもそうです。明治大学に米沢嘉博記念図書館がありまして、この米沢さんは、^{※1}（熊本出身）は、コミケの代表を長年務められてマンガの評論家もされ、日本で一番マンガを読んだ人、つまり世界で一番マンガを読んだ人と言われています。

菊陽町には、黎明期の少女雑誌のコレ

も30年以上、日本でマンガは大人のものです。大人も読むというか、子どもから大人まで読んでいる。團塊世代がマンガを引つ張ったと言われていますが、国民の3分の2がマンガを読んでいる国といふのは世界的に見たら異常です。でもその異常さに気付かないくらいのマンガは日常に入ってしまっているので、それを客観的に可視化するという点で、学問で扱う意義があると思いますね。

吉村 例えば、展示の話で言えば学芸員とか、アーカイブだったらアーキビストとか、あるいはマンガを使つた地域おこしをするプロデューサーであるとか、要するにマンガを描くのではなくてその周辺にあるさまざまな仕事、全体像を学べるのがいいと思います。そういう人材が足りないので、そこにつないでいけるような人材育成像を文化資源学コースの中で立てる。それが重要です。

原田 そうですよね。大学は人材育成をするところだから、どんな人材を育てるのかという人材像がなければならない。ただマンガを勉強するというだけでは、なかなか……。

熊本大学のコミュニケーションケーション

水元 集めるのは一苦労です。
吉村 どういう形で残すんですか。デジタル化とか。
水元 いい。国会図書館とかでもやつてあります。ただ、雑誌はとにかく場所を取る。その問題があるので、たとえば熊本にゆかりがあるものだと、年代だと
雑誌は細質が悪くて青書れもするし

史館の学芸員をされている方がいます。熊本にどんな貸本屋や古本屋があつたのかということを当時の電話帳から調べられました。そのエリアが米沢さんや橋本さんが住んでいた近辺と重なっています。描き手は全国的に育っていますが、集中的にマンガ文化に触れてそれを広げようとする人たちがいるのが熊本だというのは、マンガ研究においては注目されていることです。

吉村 悲しいことに、雑誌は危ないです。古文書にもありがちですが、古い方が紙質は良くて残つたりします。戦後の

水元 マンガの紙の保存性はどうですか？

クションが收藏されています。データベースを作るお手伝いをしましたが、少女雑誌はそれを見た人たちが少女マンガになっていく、マンガにすごく影響を与えた媒体。コレクターの村崎修三さんも有名な方で、熊本ご出身です。少女マンガ研究家としては第一人者の藤本由香里さんも熊本出身です。

なぜこんなに熊本にマンガ研究者が集まっているのか。実は、熊本でも貸本



京都精華大学副学長・**吉村 和真** 氏 マンガ学部教授

福岡県出身。熊本大学文学部卒、1996年熊本大学大学院修士課程修了。立命館大学大学院文学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員などを経て、2006年より京都精華大学マンガ学部准教授、現在は教育企画担当副学長・常務理事。日本マンガ学会設立や、京都国際マンガミュージアムの設立に尽力。専門は思想史・マンガ研究。主編著に「差別と向き合うマンガたち」、「マンガの教科書」、「手塚治虫一逆風が育んだ『マンガの神様』」など。

Y O S H I M U R A

4

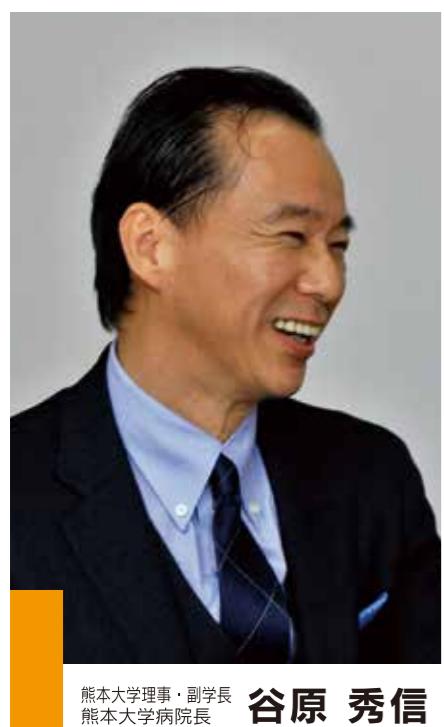
ある種の志向の強い人たちが集団を形成して特定の方向を目指した時、化学反応を起こして、多くの才能が育っていく。アカデミアの本質は、基本的に若い人たちに学問、あるいは学問に準じるさまざまなものに対して興味をかきたてて、彼らがそれを一種の糧として生きていく。その中で競い合うことでもつとすばらしいものを自分たちで創り出していく。その場を提供することがアカデミアの最大の役割だと思います。現代文化資源学コースの中でも、興味のある人が集まることで突然変異を起こして、化学反応で次世代のリーダーが出てくるのを期待したい。

谷原 マンガ界で有名なのか手塚治虫さんを中心には藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫がときわ荘で同じアパートに暮らした時代があつたことです。京都精華大学の元学長竹宮恵子さんと、「ボーの一族」を描いた萩尾望都さんは、大泉サロンという同じアパートで暮らしそこにはのちに有名になる少女マンガ家たちが集っていた。

集まつて化学反応し、才能が育つ

思うんです。

教育の本質は
若者をワクワクさせること



熊本大学理事・副学長
熊本大学病院長 谷原 秀信

大阪府出身。1985年京都大学医学部医学科卒。南ルーフォニア大学Dohney眼研究所研究員、マイアミ大学Bascom Palmer眼研究所研究員、京都大学医学部講師、天理よろづ相談所病院眼科部長などを経て、2001年熊本大学医学部教授に着任。2019年4月より現職。専門は眼科学(特に緑内障、網膜)。熊本県医療対策協議会委員、国立大学附属病院臨床研究推進会議幹事なども歴任。

T A N I H A B A H i d e n o b u

理想としては
マンガだけじ
テンツ産業を盛
るものとして作
元気にするとい
なるような形で
るコースにし
全体も、意外と
産業を作っちゃ
い、という勢い
宿題ができた
張ります！

産業として
やなく、コン
地方で独自の
つて、地方を
いう起爆剤に
でも貢献でき
たい。文学部
こ人文系つて
やうんじやな
でやりたい。
けど(笑)、頑

で博士課程をつくづくと学長を説得して(笑)。水元 対談で、すべきことが増えてしました(笑)。

繰り返し言つておられるように、「マンガアニメでもいいですが、興奮してすごく面白い」と思える、浸れるものがあることは、それだけで人生が豊かになる。ぜひ熊本大学は、現代文化資源学コース、将来で生きるかもしれない大学院のコースも含めて、若者たちが本当に面白いものを学べたと、後的人生になつても思つてくれる大学でありたい。ということで、スマムダンクで有名な安西先生の名言「あきらめたら、そこで試合終了ですよ?」(笑)。

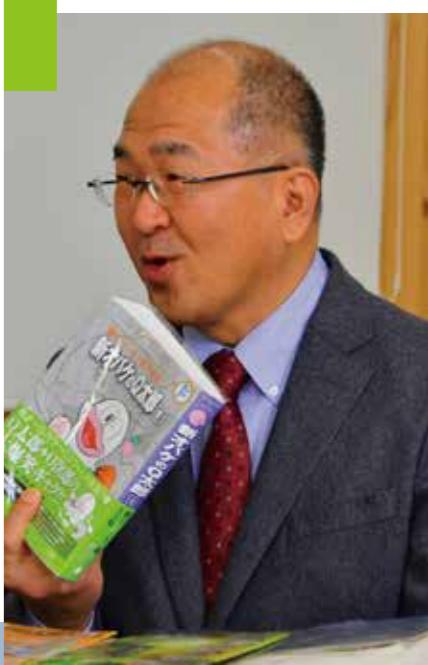
書いた有名な本の題名です。子どもの時は何かを見る度にびっくりしたり感激したりする。自然の神祕や不思議さに目を見張る、ワクワクする感性。研究者にとって一番大事な「センス・オブ・ワンダ」。学問の本質は、ワクワクすることだと思っています。そして、教育の本質は、若者をワクワクさせることにある。吉村先生が

目的です。編集者やテレビのプロデューサーになるような人材の育成です。編集加工ができて、附加価値を付けられる人材を出したい。そこがやつぱり肝かなと思う。大学にとってプロデューサーは学長。誰が学長になるかによってその大学は全然違つてきます。結局は、プロデューサーだと

→そういう意味で、現代文化資源学「一
スの役割は大きいですね。

世界に、それを待つて いる人たちがた
くさんいるはずです。

プロデュースできる人材を育成します。



熊本大学文学部長 水元 豊文

M I Z U M O T O T o y o f u m
愛媛県出身。法政大学法学部卒業、駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻修士課程修了。ウィスconsin大学(マディソン校)大学院、ヴァージニア工科大学大学院、財団法人国際通信経済研究所主任研究員、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所助教授などを経て、2004年4月熊本大学文学部助教授に着任。2010年文学部教授、2015年4月より現職。専門分野はコミュニケーション学、情報メディア倫理。



展示されているマンガを見て「懐かしいなあ」と盛り上がりました。



合志マンガ ミュージアム

創造炎 挑戰森